

りんご産業の維持発展に向けて

～農地の集積と基盤整備への取り組み～

J Aつがる弘前
成田 康伸

現状分析

① 農業現場

- ▶ 少子高齢化
 - ▶ 労働力不足
 - ▶ 後継者不在
- 深刻化



- ▶ 耕作放棄地の増加
- ▶ りんご生産量の減少

② J Aつがる弘前

- ▶ りんご出荷者数
 - ▶ りんご入庫数量
 - ▶ 正組合員数
- 大幅に減少



- ▶ 事業利益の減少
- ▶ 出資金の減少

課題

りんご産業の維持発展に向けて

- ▶ 耕作放棄地の発生抑制と有効活用
 - ・担い手の確保
 - ・新規就農の促進
 - ・農業現場における労働力の確保

- ▶ J Aによる組合員サービスの質向上



解決策案

- ① りんご園地の広域基盤整備
- ② 省力樹形への計画的な改植
- ③ スマート農機の導入
- ④ 労働環境の整備

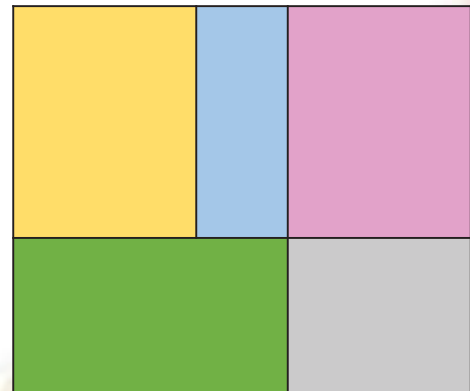
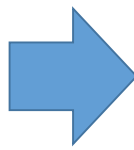
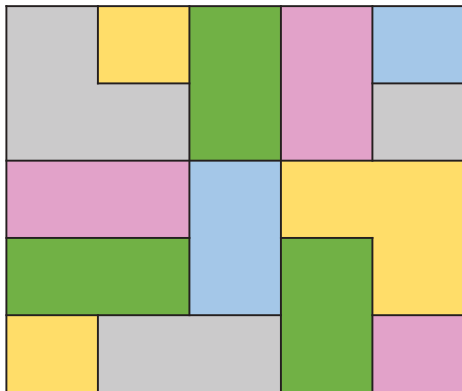
解決策案① りんご園地の広域基盤整備

広域基盤整備の目的

農地の大規模化による作業効率向上

広域基盤整備のイメージ

- ・地区内の農地を区画整備（境界の段差や高低差を均して平らに）し、営農を継続できる地権者や新規就農者へ再配分



解決策案① りんご園地の広域基盤整備

広域基盤整備に向けた具体的な流れ①

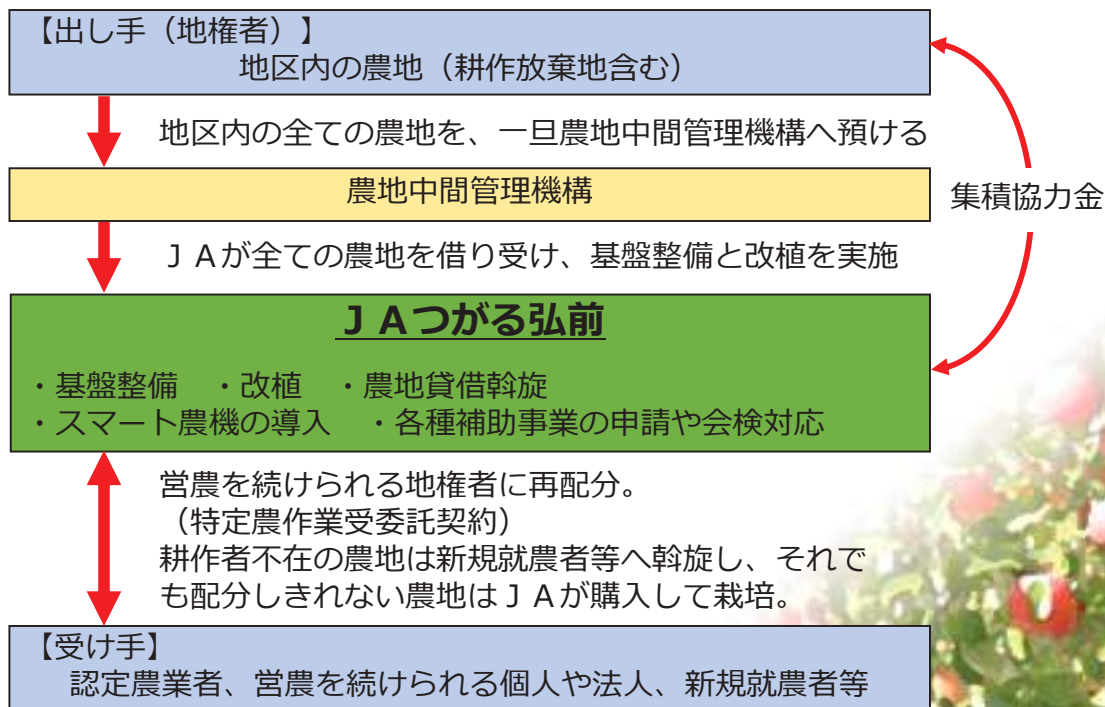
- (1) モデル地区を選定
 - ・なるべく平坦な地形
 - ・地区内で法人や個人が営農している
 - ・地区内に耕作放棄地が点在している
- (2) 地権者へ仕組みを説明し理解を得る



※集落座談会イメージ

解決策案① りんご園地の広域基盤整備

広域基盤整備に向けた具体的な流れ②



解決策案② 省力樹形への計画的な改植

取り組み内容

- (1) モデル地区内における段階的な改植計画策定
 - ・慣行栽培部分を残して収入の減少を抑制
- (2) 計画に則り一定期間ごとに改植
- (3) 省力品種等への改植
 - ・優良着色系品種で省力化
 - ・超高密植やワイ化栽培で作業効率化
- (4) 各種補助事業の活用
 - ・果樹未収益期間支援事業 等
 - ・果樹経営支援対策事業 等



解決策案③ スマート農機の導入

現状

- (1) 広い面積で作業をするため乗用機械を用いるのが一般的

自動化により得られる効果

- (1) 省力化
- (2) 事故リスク軽減

具体的な導入機械

- (1) 自動運転スピードスプレーヤー
 - ・散布斑を防いで防除効果を最大限発揮
- (2) 自動草刈機
 - ・エリア内を自動で草刈り
 - ・自動で充電も実施



※GPSを活用した自動運転スピードスプレーヤー



※自動草刈機口ボモア「KRONOS」

解決策案④ 労働環境の整備

最近の傾向

- (1) デイワークなどのマッチングアプリの普及
- (2) 労働力不足等を補うため、外部からの労働力調達が必要

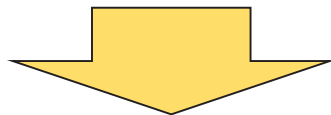
取り組み内容

- (1) トイレの整備
- (2) 休憩場所の確保

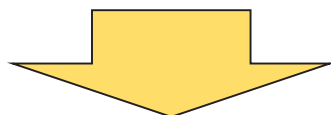


まとめ

(基盤整備、改植、スマート農機導入、労働環境整備)
これらの取り組みによって得られる効果



- ▶ 省力化で既存生産者が営農を続けやすくなる
- ▶ 耕作放棄地の発生抑制・有効活用
- ▶ 新規就農者への農地斡旋・スムーズな事業承継
- ▶ J Aの基盤強化で組合員サービスの質向上



りんご産業の維持・発展

